

土壌・地下水汚染 (3) (2-I-10-4~2-I-12-1)

本セッションでは、発展途上国にける地下水の水質汚染問題を扱った発表が3件、国内において環境基準が設定されている物質に関する発表が3件であった。

2-I-10-4 はベトナムハノイ市において、ため池の底質の間隙水の高いヒ素濃度が周辺地下水のヒ素濃度に影響を与えている可能性があるというものであった。底質間隙水が周辺地下水の水質に影響を与えているかどうかの決定的な証拠はまだ得られていないものの、そのような視点は新しいものであり、注目された。

2-I-11-1 はネパール・カトマンズ盆地における下水の混入率を無期イオン成分比で求め、井戸の差異について比較したものである。開放井戸における下水による汚染が明らかになった。

2-I-11-2 は、同じくカトマンズ盆地において、窒素安定同位体比を用いて地下水の窒素汚染が下水漏洩によって生じていることを示したものである。下水の混入と同時に脱窒の影響も明らかになっている点が注目された。

2-I-11-3 は研究が不足している臭化物イオンの分布について考察したもので、工業、生活排水などの人為的な由来のほか、腐植の影響も示された。

2-I-11-4 は、有機塩素化合物の長期的なモニタリング結果であり、著者の努力に敬意を表するものである。いったん低下した地下水中のテトラクロロエチレン濃度が、地表の掘返しなどによって上昇することが示された。

2-I-12-1 は熊本市における地下水の窒素安定同位体比についての研究結果である。近年地下水中の窒素濃度が上昇しており、畜産に起因する可能性が高いことが示された。

硝酸態窒素等による地下水の汚染問題は依然として深刻さを増しており、さらに研究が進展することを願いたい。

(山口大学 山本 浩一)